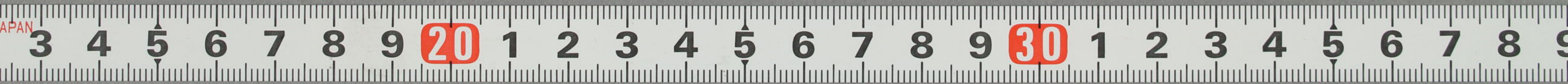
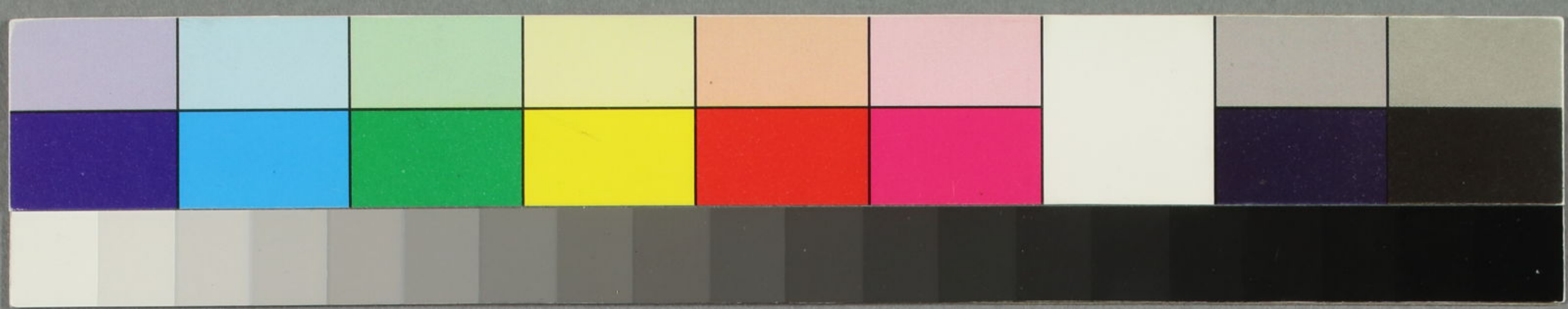


後者人扣鏡
印

寛政七年

特別
千13
3849
58 (3)





門子 13
號 3849
卷 58-3

役者人相鏡

里紅相



江戸の巻

かきよく
たきよく

こく
ひい

ちりよ
ま

そりて
そりて

たごのまのこく

蓮のどし流津より流津をあらど
ゆめのぞんでもふ及あらだ



2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4

白猿相



杜若相



路考相



我童相



江戸三ツ又長物波者目録

さうしん 都 傳 肉 産

ふき所 桐 長 桐 産

こき所 江戸清権之助 産

○江戸三ツ又長物波者目録

物巻巻頭

市川銀蔵 打丸

▲立役之部

極上吉 松平幸兵衛 六兵衛

真上吉 上原のぶとくちあもともこのぶ 子齋

市川八百蔵 打丸

市川三郎左衛門 打丸

上上吉 市川三郎左衛門 打丸

上上吉 市川三郎左衛門 打丸

上上吉 市川三郎左衛門 打丸

上上吉 市川三郎左衛門 打丸

上上吉 市川三郎左衛門 打丸

上上吉 市川三郎左衛門 打丸

官所

上上吉

坂東三河守

於元

評判の事と一なる或たの二並前
中なるの事と一なる或たの二並前

上上吉

山科四郎守

於元

上上吉

市川源次郎

於元

上上吉

尾上雷助

於元

上上吉

中村権次郎

於元

上上吉

市川源次郎

於元

上上吉

沢村春次郎

於元

上上吉

茨神左衛門

於元

上上吉

坂田平兵衛

於元

上上吉

市川安次郎

於元

上上吉

坂東三河守

於元

上上吉

大谷門次郎

於元

上上吉

市川外次郎

於元

上上吉

▲▲▲▲▲

於元

上上吉

▲▲▲▲▲

於元

上上吉 中市川源次郎

和元

上上吉 市川源次郎

和元

上上吉 小徳川守

和元

上上吉 市川源次郎

和元

上上吉 市川源次郎

和元

上上吉 市川源次郎

和元

上上吉 市川源次郎

和元

上上吉 市川源次郎

和元

上上吉 市川源次郎

和元

上上吉 市川源次郎

和元

上上吉 市川源次郎

和元

上上

大和山交吉

和元

上上

萩建吉

和元

上上

吾妻文吉

多慶

上上

尾吉

多慶

上上

中村吉

和元

上上

松平吉

和元

上上

市川吉

和元

上上

市川吉

多慶

上上

中村吉

和元

上上

嵐吉

和元

上上

大谷吉

和元

上上

中村吉

和元

上上

大谷吉

和元

上上

大谷吉

和元

上

坂东大表

多慶

▲坂东之部

上上

坂村宗吉

和元

上上

坂东吉

和元

上上

中村吉

和元

上上

山平仙

和元

上上

三國吉

多慶

上上

▲美吉

和元

上上

池川吉

和元

上上

小谷吉

多慶

上上

中山吉

和元

上上

中村吉

和元

上上

梯山吉

和元

上上

梯山吉

和元

またのありとこそこの歌の歌

和元のさる風とふ別篇

うぐりく先河利北お終や常備

上上吉 後河川市松 於凡

美系歌の系括こつとまもつと善高

上上士 岩井系終節 多寶

尾くと終まふ一ふのまふる節

上上士 後河川市松 於凡

上上士 松本系終節 多寶

上上士 岩井系終節 於凡

上上士 山下万象 相凡

上上士 後河川市松 於凡

上上士 山下民之介 相凡

上上士 中村系終節 於凡

上上士 坂本小橋次 多寶

上上士 中村万代 於凡

上上士 小橋川七之巻 多寶

上上士 大系終節 多寶

上上士 岩井小系節 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

上上士 後河川七之介 多寶

▲子波く糸

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

此巻のうらうらの巻の目録の此巻

上 坂東刺子 上 市川八景
上 尾上 上 市川八景
上 市川八景 上 市川八景
上 尾上 上 市川八景

極上吉 山下金作 打片

▲之文元之部

不出藝 都信内 座本
上上吉 都信内 座本
不出藝 筒井吉十系 座本
上上吉 中村十卷 座本
上上吉 中村十卷 座本
不出藝 中村十卷 座本
不出藝 中村十卷 座本
不出藝 中村十卷 座本
不出藝 中村十卷 座本

▲粗言泄者之部

並木五籠 藤儀次
藤儀次 藤儀次
藤儀次 藤儀次
藤儀次 藤儀次
藤儀次 藤儀次
藤儀次 藤儀次
藤儀次 藤儀次
藤儀次 藤儀次

都元

菅原 菅原
菅原 菅原
菅原 菅原
菅原 菅原
菅原 菅原
菅原 菅原
菅原 菅原
菅原 菅原

吉視所 桐元

源元

中村 中村
中村 中村
中村 中村
中村 中村
中村 中村
中村 中村
中村 中村
中村 中村

以上

。後者位遷香高之次第

漢書初後漢書の次第と今より上上六中上
の人殊とまうこととや廢毀本堂の後遷廟と
るれをどうして上吉以下の位とまめまうぬじ
得て上吉以下のままられて今上とま
るは中の上位より先世と移れまをひてこの
じ首の位起とてまめまうぬじとて人び
移せに後とまうぬじの位は後とまめまうぬじ
御衛とて廢毀の位起とてまめまうぬじとて
先移せえ具の位起とてまめまうぬじとて
や次の位起とてまめまうぬじとてまめまうぬじ
廢毀とてまめまうぬじとてまめまうぬじとて
こととて廢毀の位起とてまめまうぬじとて
めでまめまうぬじとてまめまうぬじとて
こととて廢毀の位起とてまめまうぬじとて
西館のまめまうぬじとてまめまうぬじとて
の位起とてまめまうぬじとてまめまうぬじ
とてまめまうぬじとてまめまうぬじとて

一才一 三津波屋敷とてかひ上の位なり 名

人と稱しとて此の昔はたのめをまめまうぬじ

一才二 無類亦にまめまうぬじとてまめまうぬじ

ともまめまうぬじとてまめまうぬじとて

人よりまめまうぬじとてまめまうぬじとて

柏邊とて此は村をまめまうぬじとてまめまうぬじ

殊に上遷自伝の位なり

一才三 極上吉とてまめまうぬじの極位とてまめまうぬじ

とてまめまうぬじとてまめまうぬじとて

一才四 極上吉 真上吉 極真 引合之 白

極上極上極上極上極上極上極上極上極上極上

とてまめまうぬじとてまめまうぬじとて

とてまめまうぬじとてまめまうぬじとて

とてまめまうぬじとてまめまうぬじとて

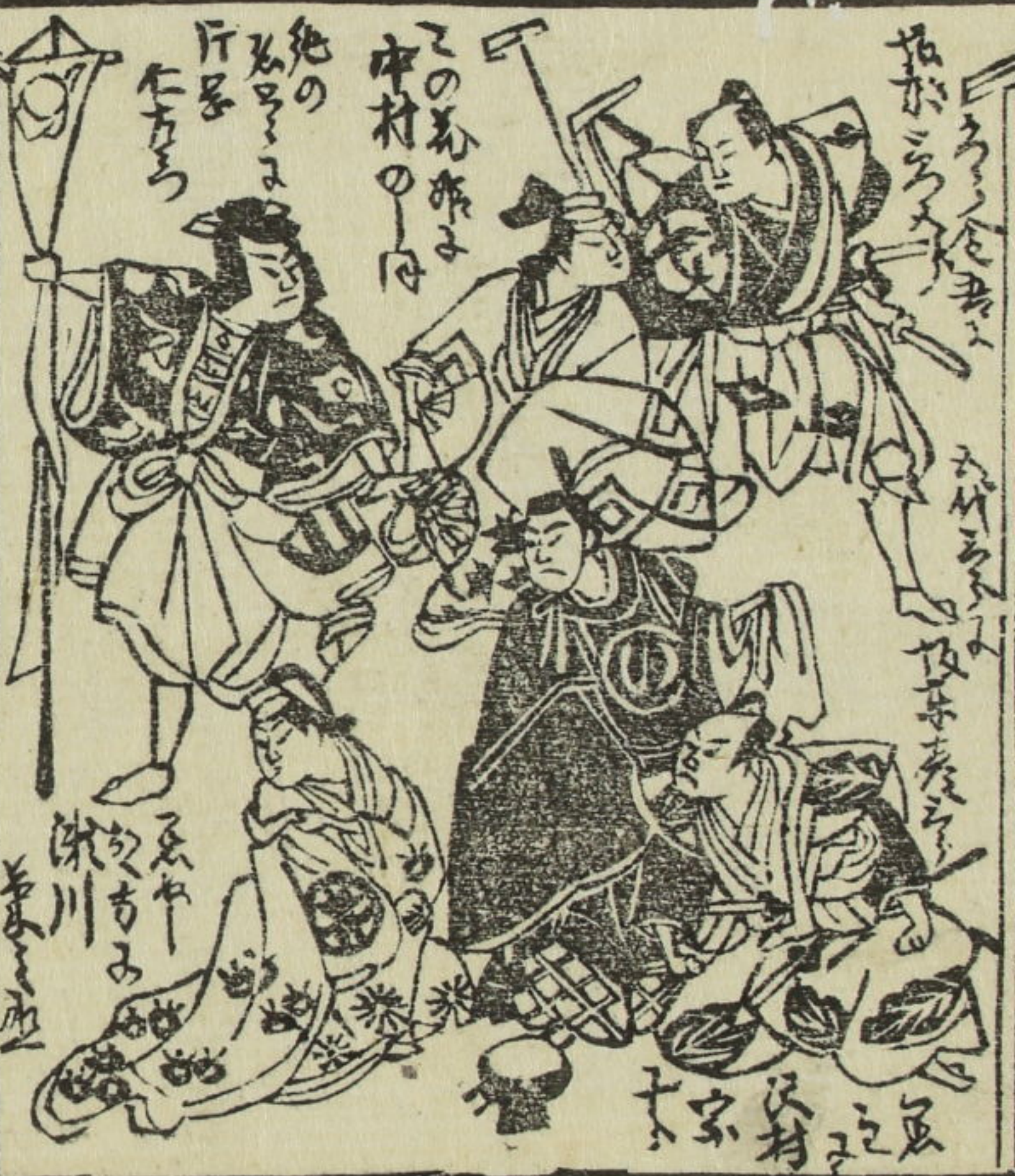
とてまめまうぬじとてまめまうぬじとて

一才又 極上吉 天上吉 と二位 極上極上

とてまめまうぬじとてまめまうぬじとて

關歌子名歌卷

相座
墨番後



男山御信守磐石

相座
墨番後



松貞婦女楠

墨番後



そは及いぬて見えてもあつておぼえし

上 上 取立三本巻 初見

上 上 市川非経 多発

取立三本巻がごとく二冊ありてはとて
取立のふれ取立のふれありては非経
取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

取立のふれ取立のふれありては

徳川の御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること

本吉千松陽龍車日皇信士 俗名 市川信士

寛政六年寅十一月十九日

今さらくは、はるかに、諱世 龍車

徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること

上上回 徳川家御流 坂東義長助 多彦

徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること

徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること

上上 徳川家御流 中村地九郎 初代

初吉 徳川家御流 大谷彦彦 初代

徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること

▲ 実録之部

上吉 徳川家御流 坂東義長助 初代

徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること
徳川家御流と云ふは、徳川家やうあること

山登る百歩半中東去との之ぞまじりけ

上上吉 ○ 飯回ぎ常 和唐

此は高糧の多量を不感におもひ
のりおはるる海までまきあきこれ
中はまきあきけらりかき出まき
まきあきけらりかき出まきあき
都々合く四のめりまはりの確るる
といふまきあきけらりかき出まき
安んをまきあきけらりかき出まき
もの^二飯回ぎ^一はまきあきけらりかき出まき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき

後夏より冬にかけての節は
多分まきあきけらりかき出まき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき

上上吉 ○ 斤量むら 於元

この節はまきあきけらりかき出まき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき
まきあきけらりかき出まきあき

先の故はし河をうつと致る時も故に
至るより海利ありといふも其を云ふ
事無くして其を下とてはたかくての事をして
は終つては侍れども是れを扱ふは其の地を
あり^田其故の事には侍らざるに侍る
賜の事にしては侍らざるに侍る
事なれども第一にしては侍らざるに侍る
の事とて今も我らに侍らざるに侍る
とて侍らざるに侍らざるに侍る
故に侍らざるに侍らざるに侍る
なりとて侍らざるに侍らざるに侍る
中へ侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る

その日て是れ故は侍らざるに侍る
下の故に侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る

上王言 ○嵐は侍らざるに侍る

及昔も故は侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る
侍らざるに侍らざるに侍る

この家の内々御意に成す事を以て
の御意に成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に

上上吉 申す仲は 秋月

此の御意に成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に

上上吉 水村は 秋月

上上吉 大長庚の 秋月

此の御意に成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に

上上吉 尾上は 秋月

此の御意に成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に
成す事と申すは、まことに御意に

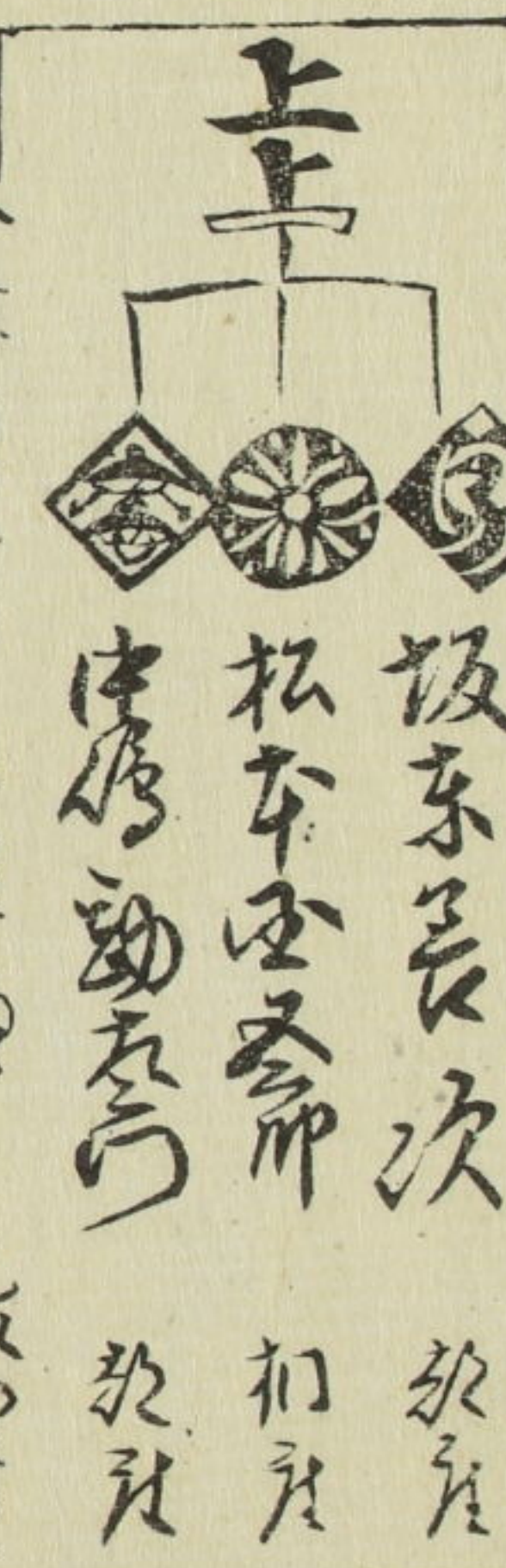
▲敵役 部

上上吉 申す仲は 秋月

以首は各園持家出以赤坂若きの奥の持家
 小室しじく又其持家出以しじくの持家此
 身がりの大系は其持家しじく

上上 市川宗三郎 其元

以首 鬼塚次上 坂西宗三郎 其元



以首 松平小次郎 其元

以首 市川和台郎 其元

以首 松平小次郎 其元
 以首 市川和台郎 其元

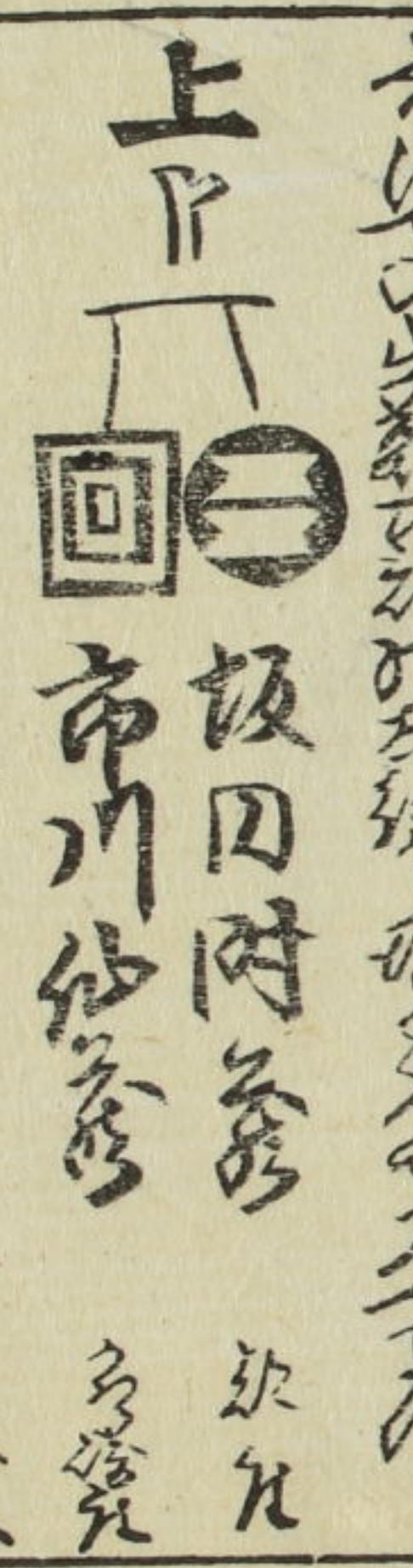
上上

中村小次郎 其元
 其元

以首 市川和台郎 其元

以首 松平小次郎 其元

以首 市川和台郎 其元



上上 市川仙三郎 其元
 以首 坂田四郎 其元

以首 市川和台郎 其元

上上 大和山五郎 其元

上上 市川 氏 家 也 経 商 也 也 赤 村
 之 知 名 也 今 一 町 三 町 合 算 乃 以 爲 三 段 也
 近 々 七 町 也 乃 以 之 計 也

上上 萩 守 氏 也 相 氏

上上 氏 家 也 乃 曰 殿 現 行 軍 乃 通 之 也 也
 其 名 曰 氏 乃 三 町 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也
 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也

上上上上上上
 長 壽 寺 氏 家 也 乃 以 之 計 也
 中 村 氏 家 也 乃 以 之 計 也
 大 名 氏 家 也 乃 以 之 計 也
 松 本 氏 家 也 乃 以 之 計 也
 市 川 氏 家 也 乃 以 之 計 也
 尾 上 氏 家 也 乃 以 之 計 也

乃 曰 氏 家 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也
 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也

乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也
 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也
 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也

▲ 乃 以 之 計 也

上上 大 名 氏 家 也 乃 以 之 計 也

乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也
 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也
 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也

▲ 美 女 氏 家 也

乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也 乃 以 之 計 也

上上



山ノ下氏之印

和光

以自來泉... 山ノ下氏之印... 和光

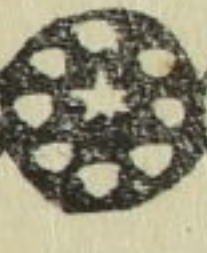
上卜



中村氏之印

和光

上卜



板東小次郎

和光

上卜



中村万代

和光

以自來泉... 山ノ下氏之印... 和光

極上吉



岩井守正印

和光

以自來泉... 山ノ下氏之印... 和光

極上吉... 山下金作... 和光

極上吉



山下金作

和光

以自來泉... 山ノ下氏之印... 和光

